

...ボランティアがつくるニュースレター...

# トラストネットワーク

発行…トラスト通信ボランティア  
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5

Tel: 03-6379-1620 Fax: 03-6379-4233

<http://www.setagayatm.or.jp/>



No. 81

2018年 9月

## 桜木遺跡について

桜木遺跡は旧石器時代から現代に及ぶ遺跡が密集し、豊富な内容を持っていることで知られています。

世田谷区のほぼ中央部に位置し、東西に約400メートル、南北に約220メートル、面積は約80,000平方メートルに及ぶと推定されています。これまで14回に及ぶ発掘調査が行われ、400軒近い住居址などが発見され、都内最大級の縄文時代集落であることがわかってきました。

### 遺跡の立地と周辺

桜木遺跡の所在地は世田谷区の中央部、桜一丁目です。目黒台と呼ばれる下末吉段丘面上に位置し、北側には烏山川(現在は烏山川緑道)が通じています。右段図1に世田谷区全図の一部を示します。さらに図2には遺跡の推定範囲と調査区の位置を示し、両者の対応関係を矢印で記しました。

多摩川に面した国分寺崖線上近辺には諏訪山、奥沢台、下野毛、瀬田、大蔵遺跡など、全容は明らかではないものの、大規模集落と推定される遺跡群が連なっています。ところが内陸部では、鶴ヶ久保、蛇崩、目黒区大橋等の



図1 世田谷区全図の一部

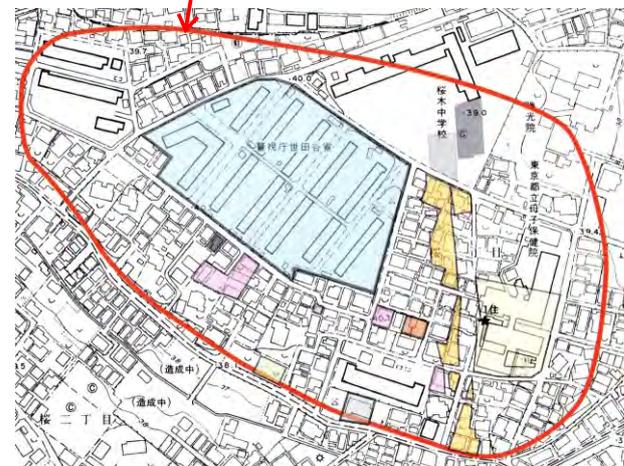


図2 遺跡の推定範囲と調査区

中規模集落遺跡が見つまっているのみで、その他は小規模集落の遺跡が確認されているにすぎません。

この状況から、桜木遺跡は周辺の中規模集落を結ぶ中心的な存在であった可能性が高いと推定されています。

### 発掘調査に至る経緯

2003年4月、警視庁より世田谷区教育委員会に対して、世田谷区桜一丁目34、35、36番に在る警視庁官舎地

### 81号の目次

桜木遺跡について	1
じゃがいもの植付け・収穫	4
夏の生きものさがし	6
かわらばん	8

区の埋蔵文化財について照会がありました。その地域はすでに周知の桜木遺跡に該当することから、試掘調査が必要である旨回答し、その結果警視庁、東京都教育委員会、区教育委員会で調査方法、実施時期、試掘位置等を協議し、区教育委員会が調査会を設立し、試掘調査を開始することになりました。

6月から7月にかけての試掘調査の結果、対象地の全域が縄文時代を中心とする複合遺跡であり、本格発掘調査が必要であると判断されました。さらに上記三者は協議を重ね、2005年4月1日から2006年3月31日までを調査期間とし、桜木遺跡調査会を設立して、第1次発掘調査を開始することとなりました。

### 第1次調査

調査地点：世田谷区桜一丁目

34, 35, 36番

調査原因：官舎建築に伴う事前調査

調査期間：2005年4月～2006年3月

調査面積：調査面積 約18,000㎡

この調査に引き続き、翌年から第2次、第3次とほぼ毎年1回程度の頻度で2015年まで調査は続けられました。

### 第8次調査

調査地点：世田谷区桜一丁目

27, 28, 29番

調査原因：都道補助128号線整備に伴う事前調査

調査期間：2010年4月～2010年10月

調査面積：2,223㎡

### 調査の成果と主な遺構と遺物

桜木遺跡について本格的な調査が行われたのは2005年、集合住宅建設に伴う事前調査（第0次調査）が桜一丁目27番で実施されました。引き続き2017年の第12次調査まで13回行われています。下記表1に第一次調査に次いで調査面積の大きい第8次調査で出土した遺構と遺物の概要を示します。

第1次調査の上層出土品のひとつで、縄文中期時代に使われた勝坂式土器です。

形状：深鉢 25.6 cm

寸法：器高 41.0 cm

底径 11.8 cm



表1 第1次・第8次遺跡調査成果

時代	第1次調査		第8次調査	
	遺構	遺物	遺構	遺物
旧石器時代	なし	石器 1 剥片 1	なし	ナイフ形石器 1
縄文時代	住居址 223軒	縄文土器 多数	住居址 12軒	縄文土器 多数
	竪穴 11軒	土製品 506点	竪穴 4軒	土製品 63点
	掘立柱建物跡 3	石器 16,627点	墓基 1基	石器 1650点
	土坑・ピット多数		土坑・ピット多数	
古墳時代	住居址 1 1軒	土師器		弥生土器
	竪穴 8軒	玉類		土師器
	土坑 4 ピット 2	鉄製品他		
平安時代	住居址 1軒	土師器 須恵器他		
近世～近代	溝 20条	陶磁器片	溝 6条	陶磁器片 鉄釘
近現代	土坑 181基	陶磁器 ガラス 鉄	待避壕 5基	陶磁器 ガラス



図3 第8次遺構調査状況

第8次調査は都道補助128号線の整備に伴う事前調査として実施されました。対象面積が広く、それに応じて本図に示すような調査が同時に進行していたようです。柱穴、炉の跡、溝の有無など細かい検証作業が続けられたことでしょう。

出土品資料を見ると人骨等が見当たりません。専門家に伺うと縄文時代の人骨は土中で分解されて一般的な環境では残らず、貝塚の存在する環境では、貝殻の化学成分の影響で人骨の分解が遅れ、出土することがあるそうです。

### 遺跡の名称

桜木という名称が用いられています。この名称は現在区内には桜木中学校、桜木ふれあい緑地などと使われています。明治8・9年頃世田谷村の字名として使われたのが由来だと思われます。桜は隣の勝光院の墓地に多く、参道は桜並木であったからと思われます。

### 待避壕について

調査の過程で明らかになった第2次大戦中の遺構として待避壕(防空壕)の発見は興味あることです。現在より73年以上過去に掘られたのですが、関係者が存命され



図4 小人数用の待避壕



図5 大型待避壕 手前が階段、その奥が右側に折れて続いている

る中に詳細が明らかになることを期待します。

待避壕は第8次調査で5基確認されています。少人数用と比較的大型の階段を持つ形式の2種類と思われます。

### 課題と希望

現状の発掘調査は遺跡を調査、記録しそれを保存する「記録保存」の原則に従っています。しかし将来を考慮し埋もれた文化財の「現物保存」としてこれからの発掘に期待するとともに、現物の住居再現、あるいはレプリカの作成と保存を課題として配慮されることを期待したいと思います。

### 参考資料

主に下記の資料より調査関連の内容や関連写真等を活用させていただきました。

あらためて感謝いたします。

桜木遺跡Ⅰ 桜木遺跡調査会編  
世田谷区教育委員会発行  
発行日2008年3月31日

桜木遺跡Ⅴ 桜木遺跡第8次調査会編  
世田谷区教育委員会発行  
発行日2011年3月31日

発掘調査を終え、その後に縄文時代から続いた基礎の上に構築された建物です。



## 瀬田農業公園(分園) 体験イベント

### じゃがいも の 植付け・収穫

**植付け** 3月18日(日)午後2時から瀬田農業公園(分園)で体験イベント「じゃがいもの植付け」が開催されました。当日の空模様は曇りでしたが、あらかじめ申し込んであった人達の中から抽選で選ばれた18家族が参加しました。

最初に挨拶があり、続いて、農業指導員からいもを植える際の注意。まず、種いもの芽が大きくなりすぎているので、除去すること。種いものが大きいので二つに切ること。二つに切る際に、芽の出るところを切らないように注意をすること。いものヘソと芽の出るところの違いの確認。そして、いもの切り口に木灰をまぶすこと、いもの切り口の腐敗の防止と肥料として利用するため。また、植える際は切り口を下にして植え、芋のところだけ、芋が見えなくなるように土を被せ、その上に配合肥料を一握り施し、その後で畝全体に土をかけることなど。

その後、種いも、包丁、まな板等が並べられている作業台に移動し、一家族3個の種いもを受け取りました。

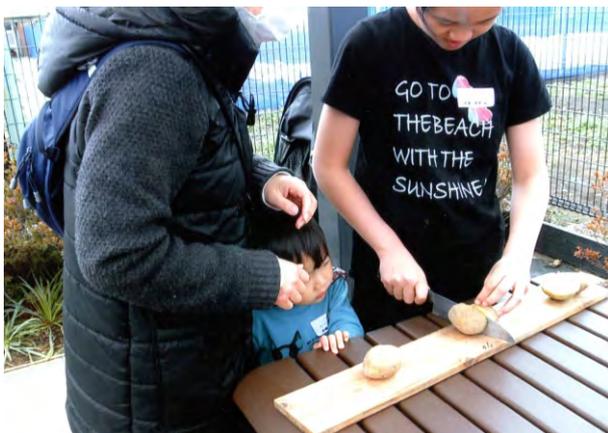
いよいよ体験開始、種いもの芽を欠き、芽の出るところとヘソの位置を



確認して、切り分けです。子供達も真剣そのもの、慎重に切り分けました。切り終えた家族はバケツに入っている木灰をまぶし、圃場へ。圃場には深さ10cm位の種いもを植える溝が2列作られていました。溝と溝との間隔は2尺2寸(約66cm)。この畝に1尺2寸(約36cm)の間隔で種いもを植えます。まず、圃場に到着した順に種いもの植付けを始めたのですが、坊やが溝のところさらに大きな穴を掘り、あわてたお父さんが穴を埋め戻したり、慎重に種いもの植える位置を測っている間に、せっかちな隣人に種いもの植付け地を占領され、場所を確保できなかった家族が数人出たため、もう一列溝を作り、無事に種いもの植付けを終えました。

作業後、農業指導員から、じゃがいもは育成期間が短くて、約3ヶ月で収穫できること。また、ナス科の植物なので、同じ科のトマトや唐辛子などを同じ場所に植付けると連作障害が発生すること。芽は数本出るが、2本だけにし、あとは間引きをすること、などの説明があり、2時45分頃終了しました。

**収穫** 7月7日(土)午後2時から収穫体験。2日続いた雨も上がり、曇っていたため暑さも和らぎ、じゃがいもの収穫には最良の日でした。



まず、最初に挨拶の後、農業指導員からいもを収穫する際の注意事項の話がありました。掘るのは一家族あたり3株で、3株毎に溝を掘ってあるので間違わないこと。移植ごてを使うのでケガをしないように。風が吹いているので風上にしゃがんで掘ること。いもを高く持ち上げないこと。いずれも、土が飛んだりこぼれたりして目に入る心配があるので注意をすること等の話の後、いよいよ圃場へ。

圃場のじゃがいもの茎や葉は枯れていましたが、枯れた茎は1株につき2本でした。農業指導員の方々がじゃがいもの芽を間引いてくれていたようです。驚いたのは、枯れたじゃがいもの茎にトマトの実の子供のような実が沢山ついていたこと。通常、じゃがいもにも沢山の花が咲くのですが、実がなるのは少ないようです。この調子だと、地下のいもも大きくなっているかも、と期待が大きくなりました。

圃場に入ると、3株毎に掘られている溝を確認しながら、自分の持ち場を決め、いよいよ収穫開始。最初は、お父さんが、圃場に入る前に渡された移植ごてで土を掃くように、丁寧に・慎重に除いてゆきました。そして家族全員も、息をのむようにして見ていたのですが、いもを掘りあてると途端に家族全員が手を土の中に突き立て、いもを手で掘り出しました。じゃがいもは一株に、握りこぶし二つか三つくらいの大きさのものが5個から6個位はついていましたようです。もちろん、握りこぶしより小さいいもも沢山採れました。

土を掘り出すと、次から次にいもが出てくるため、移植ごてを放り出して、皆さん夢中になって手で土を掘っていました。

ある家族の収穫作業を見ていたら、お父さんが「もうこの株のいもは採りつくしたから、次の株に移ろう。」と言ったので、坊やが「もっと掘らせて」と、ちょっと離れた場所を移植ごてで掘ったところ、坊やの握りこぶし三つ分くらいの大きないもが出てきました。坊やは、「あった。あった。」といもを抱えて、飛び上がって大喜び。

そんなことがあったせいか、収穫作業後に農業指導員が鍬で畝を掘り起こしましたが、取り残したいもは全部で3つほどでした。

収穫作業後、農業指導員からの注意と質疑応答が行われました。

じゃがいもは生で食べると下痢をすること。それから、いもが露出してみどりに色づいたものが有るかもしれませんが、みどり色のところは中毒の原因となるので、切り捨てること。

質問では、いもの実は食べられるかとか、実の中の種を蒔いたらいもになるのか、というものでした。

質疑応答後、参加者は、袋にいっぱい入ったいもを大事そうに抱え、満足顔で帰って行きました。当日の参加者は、16家族でした。



まちの生きものしらべ 2018  
キックオフイベント

夏の生きものさがし

1 生きものさがしミニツアー

7月21日(土)の午前9時半、10時半、午後3時半の3回開催されました。参加者は午前9時半が9家族、10時半が4家族、午後3時半が2家族でした。最初に担当者の挨拶、そして説明員等の紹介の後、最初の組は人数が多いため、2班編成となり、9時半に出発しました。



外は日差しが強く、野川沿いのビジターセンターの隣の原っぱのオオバコも芝生も葉を丸めた状態で、昆虫も見えません。かろうじて、セミの抜け殻を1個見つけただけで、早々に目的の成城四丁目緑地に。まず、クヌギの木の下で「オトシブミ」(体が硬い甲虫・カブトムシの仲間)の解説。「オトシブミ」は、木の葉を丸めて卵を産む種類が多いのですが、ここに住むオトシブミは、クヌギの若い実(どんぐり)の中に卵を産み、クヌギの実が大きくなると卵がつぶされるので、実が大きくならないよう枝ごと切って落とすのだそうです。地面には実のついたクヌギの枝がたくさん落ちていました。実には卵を産み付けた穴が開いていました。

次は、坂道の途中で、黒いジガバチを見つけました。蜂の一種なので、刺される心配もあるとかで素通り。

坂道の中間の辺りのクヌギとコナラの大木の根元で樹液が出ているところには、カブトムシ(メス)、カナブンなどの昆虫が沢山集まっています、子供達も興味津々。皆さん熱心に観察していました。

近くに落葉溜めがあったのですが、勝手に調査をすることができないので、残念ながら今回は素通り。この落葉溜めの近くでコオロギの幼虫や緑色のクモも発見。次に、樹木の名札をめくるとヤモリが見つかりました。そして、ビックリしたのは、コナラの葉の裏に5~6cmはあろうかと思われる「クチバスズメガ」の大きい幼虫が張り付いていました。これには皆さん大喜び。

説明員から、昆虫も暑くなると木の葉の陰等で休んでしまうので、昆虫の観察は、午前10時半前には終わるとよい、という話がありました。

ツアー終了後、観察会で見た昆虫の名前を申告し、用紙に記載しました。

ヤモリ、カブトムシ(メス)、カナブン、ジガバチ、モンシロチョウ、ニイニイゼミ、クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、コオロギ、カマキリ、ヨコバイ、ギンヤンマ、アオスジアゲハ、ウラシジミ、クチバスズメガの幼虫、チョッキリの仲間、クモの仲間、シオカラトンボ、クワガタ、ヤマトシジミ、クロカナブン、クマバチ、ミミズ、ヨツボシケシキスイの25種。

10時半の組がビジターセンターを出た途端、まだ生きているアブラゼミ



が地面に落ちていました。子供達は気味が悪かったのか、セミを差し出されても、触らずに逃げてしまい、一番小さい子が母親に手を引かれ、やっとセミに触りました。ところが、いろんな昆虫を見ているうちに慣れたのか、コナラの木に隠れていたカミキリムシをつかまえたり、坂道の途中に落ちていたアブラゼミを平気で触ったりするようになりました。

坂道の真中で幼児がミミズを見つけました。説明員が「このままでは死んでしまうので、あっちの落葉の陰に運んであげようよ。」と言ったので、幼児が父親に助けを求めましたが、父親もミミズはダメ。結局、説明員がミミズを助けました。

## 2 生きもののおはなし会

午後1時から「生きものの名人に聞いてみよう！ 生きもののおはなし会」（生きものをしらべて世田谷の自然を知ろう！）が開催されました。講師は、東京農大で40年以上教えておられ、現在は、NPO法人 自然環境復元協会理事の立川周二先生。参加者は約20名でした。

話の内容は、まず、世田谷区が実施している「まちの生きものしらべ2018」への参加に向けた練習的なものでスライドを用いての説明でした。

昆虫の特徴としては、人や動物が近づくと飛ぶ、跳ねる、落ちる、死んだふりをするなど、いろんな行動をとります。また、保護色といって、周りの色と似た色で生活します。例えば、バッタは草の色に似ているものもありますし、セミなどは木の幹の色に似ているものもあります。

また、昆虫の生き残り作戦では、昆虫の体色で相手を騙す色(隠れる色・保護色)、警戒色(危険と思わせる色・赤とか黄色)、擬態(鳥の糞だまし、鳥の糞のような形の虫—アゲハチョウの幼虫)、臭いを出す(カメムシ)、まがい虫(ナナホシテントウムシ)などがあげられます。

次に、昆虫の成長過程を見ると次のようになります。

アゲハチョウの場合

卵—幼虫—蛹(さなぎ)—成虫

カマキリの場合

卵—幼虫—成虫

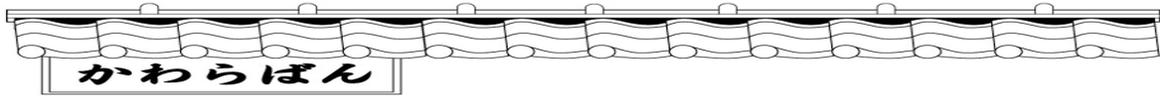
カブトムシの場合

卵—幼虫(落ち葉の中に住む。腐葉土を食べる)—蛹—成虫(クヌギ等の樹液の出る樹林で生活)

人間の生活に影響のある日本の自然

里山—野良(田畑)—里(農家等が散在)—街の順に縁が遠くなると感じます。

世田谷は人が住む都会。しかし自分が住んでいる地域を注意深く観察すると、里山や野良で見かけた自然や生きものに会うことができます。散歩などで見掛けた動物や虫などの生きものを「まちの生きものしらべ2018 調査シート」で知らせて下さい、とのことでした。



## 夏の花のトリビア

先日、近くの書店で『目からウロコの自然観察』（唐沢孝一著、中央公論新社刊、1080円）という新書を見つけ、面白そうなので買ってみました。四季折々に変化する日本の自然を観察して楽しもうという内容です。その中にある夏によく見かける「サルスベリ」の花についての観察記録を簡単にご紹介します。

**百日紅（サルスベリ）は100日も咲いているか**

サルスベリは日本の夏を代表する花の一つで、その名は木肌がスベスベして猿でも滑ることに由来しています。そして、花が咲いている期間が長いことから「百日紅（ひゃくじつこう）」とも呼ばれています。そこで筆者は、近所の公園で「花の寿命が本当に100日あるだろうか」と観察しました。



公園にはサルスベリが9本あり、1本の木には少ないものでも100個以上の花序（花をつける茎または枝）が見られます。一つの花序には蕾（つぼみ）が70、80個から300個ほどついており平均すると150個ほどになります。蕾は一斉に開花するわけではなく、1

日に数個から数十個が開花します。1個の花序の花の期間は15～20日です。

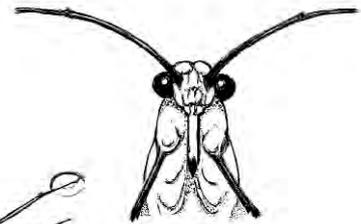
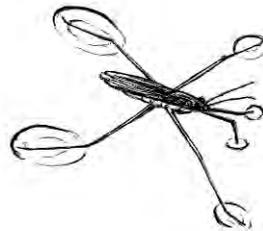
ある花序で花が咲き終わっても、別の花序ではまだ蕾の状態です。そのため、1本の木の花の咲く期間は長くなります。9本の木全体をみると7月下旬から8月下旬の1か月の間はいずれかの木が満開で、10月になっても20～30%の花が咲いていました。そして最後の一輪が散ったのは10月31日でした。

この結果、「百日紅」の名は事実だということが確かめられたそうです。

いきものさんぽ

彩草会

アメンボの顔  
アメンボ科



水面に落ちた虫に針のように尖った口器を突き刺し体液を吸います

### 編集後記

大規模な桜木遺跡の発掘調査の結果、数々の遺構、遺物が収集されてきました。それらの保管、さらに展示は重要ですが、多くの困難な解決すべき問題が在ると思われまます。現在遺跡の存在する桜一丁目付近には都道補助第128号線の地下道が計画されています。それが完成後、道路上部の利用法として資料館の構築はいかがでしょうか。将来、その管理運営を、英国のナショナル・トラストが実施しているように「(一財)世田谷トラストまちづくり」が担うのは夢でしょうか。

### 81号作成に関わったメンバー

大泉定雄  
須永澄子

片寄正史  
野武一郎

北島明子  
宮下正雄